昭和医科大学横浜市北部病院
地域医療連携ニュース
医療機関向け
No.31
2026年7月号
（年4回発行）
発行／地域医療連携室
〒224-8503
横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1
電話：045-949-7151
FSC ミックス紙 FSC® C190963

● 最新事情　麻酔科・リハビリテーション科 ／ 北部病院からのお知らせ（中面）　● 甲状腺眼症（裏面）

泌尿器科
最新事情



泌尿器科診療科長・教授
齋藤（さいとう）　克幸（かつゆき）

2026年4月より泌尿器科診療科長を拝命いたしました齋藤克幸と申します。昭和医科大学横浜市北部病院には2010年4月に赴任し、学外研修期間を経て、今年で15年目となります。平素より地域医療機関の皆様には多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

私が学外研修から復帰した頃にda Vinci systemが導入され、当院でもロボット支援下手術が開始されました。泌尿器科では2023年2月よりロボット支援下前立腺全摘術を導入し、現在は術者4名、助手3名の体制で年間50例以上を施行しております。さらに2024年からは松原英司講師を中心にロボット支援下腎部分切除術を開始し、安全に実施しております。今年度中には、膀胱癌に対する膀胱全摘術、腎癌に対する腎摘除術、腎盂・尿管癌に対する腎尿管全摘術についても、ロボット支援下手術の導入を予定しております。

今年度の泌尿器科は、冨士幸蔵特任教授を含め、泌尿器科専門医・指導医4名、専門医1名、専攻医5名の計10名体制で診療を行っております。週2回以上のカンファレンスを通じて、入院・外来を問わず診療方針を科全体で共有し、安全で質の高い医療の提供に努めております。手術についても、原則として2名以上（うち専門医1名以上）の体制で実施しております。

皆様のご支援により、当科の手術件数は年々増加しており、直近2年間はいずれも年間500件を超える手術（うち悪性腫瘍手術280件超）を施行することができました。前立腺生検も年間350件近く行っております。件数のみならず、安全性にも配慮し、前立腺生検では感染リスク低減を目的の一つとして、経直腸的生検ではなく経会陰的生検を行っております。

これまでは人員面の制約から、手術待機期間や緊急患者受け入れにおいてご不便をおかけしたこともあったかと存じます。今後は体制をさらに整備し、より円滑な医療連携に努めてまいります。地域医療を支えておられる皆様と連携しながら、患者さんに安心・安全な医療を提供できるよう、泌尿器科一同尽力してまいります。引き続きご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

地域医療機関のみなさまへ

人員体制が充実し、今後手術枠の拡充も予定されており、手術待機期間のさらなる短縮が期待されます。治療後に病状が安定した患者さんは、地域の先生方へご紹介し、引き続き連携して診療にあたってまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

麻酔科
最新事情



麻酔科診療科長・教授
橋本（はしもと）　徳（めぐみ）

地域の医療機関関係者の皆様におかれましては、平素より当院の地域連携業務に多大なるご協力をたまわり感謝しております。

麻酔科の橋本　徳と申します。2026年4月に前任の信太賢治先生から麻酔科の診療科長を引き継ぎました。よろしくお願いします。

現在、当院の手術室数は11室あり、麻酔科医21名、歯科麻酔科医4名のチームで緊急手術にも24時間体制で対応しております。2024年から産婦人科と協力して、限定的ですが無痛分娩を開始しました。安全第一をモットーに患者様の背景や全身状態に応じた最良の麻酔法を選択し、少しでも楽な術後状態を目指して麻酔を行っております。

診療内容・特色　当院の手術室では年間12,000件の手術が行われています。そのうち7,600件の症例を麻酔科が管理しております。手術室以外ではメンタルケアセンターによる電気痙攣療法（ECT）や、脳血管&心臓血管カテーテル室での麻酔を行っております。
手術室に併設した周術期外来では歯科口腔外科、手術室看護師と連携し、重症患者を中心に年間約1,300件の診察を行っております。

主な対象疾患　心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、消化器内科、一般外科、脳神経外科、甲状腺センター、小児外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、女性骨盤センター、耳鼻咽喉科、眼科、腎臓内科、メンタルケアセンター、歯科口腔外科など多岐にわたる科の手術に対応しております。

主な診療実績　2025年度　総手術件数　12,244件（麻酔科管理　7,625件）
周術期外来患者数　1,327件

地域医療機関のみなさまへ

手術をしたいが合併症の扱いに困っているなどお困りの患者さんがおられましたらご相談下さい。麻酔法についてアシストできることがあれば、ご相談に乗ります。よろしくお願いします。

リハビリテーション科
最新事情



リハビリテーション科長
永井（ながい）　隆士（たかし）

生活を育むリハビリテーション医療を目指して

地域の医療機関関係者の皆様におかれましては、平素より当院の地域連携業務にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

2026年4月1日よりリハビリテーション科の診療科長を拝命いたしました永井隆士と申します。

リハビリテーション科は、患者さんの「生活を育む」ことを大切な目標として診療に取り組んでいます。リハビリテーション医療は、単に歩行能力や筋力の回復を目指す医療ではありません。食べる、起きる、座る、立つ、歩く、トイレに行く、家に帰る、そして住み慣れた地域で自分らしく暮らす――そうした日常生活の一つひとつを見据えながら、その方に必要な機能と環境を整えていく医療です。

急性期病院に入院される患者さんは、病気やけがそのものに加えて、安静による体力低下、嚥下機能の低下、認知機能や意欲の変化、退院後の生活環境の不安など、さまざまな課題を抱えています。そのため、当科では「どのように治すか」だけでなく、「どのように食べるか」「どのように動くか」「どのように退院後の生活につなげるか」という視点を大切にしています。入院早期から患者さんの状態を把握し、主治医、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携しながら、その方に必要なリハビリテーション医療を検討しています。

横浜市北部病院における当科の主な役割は、急性期入院中の患者さんに対するリハビリテーション医療の質を支えることです。具体的には、嚥下機能の評価を通じて安全に食べることを支援し、誤嚥性肺炎の予防や

甲状腺眼症 ～見逃さないためのポイントと新しい治療～



眼科　准教授
遠藤（えんどう）　貴美（きみ）

甲状腺眼症（Thyroid Eye Disease：TED）は、甲状腺関連自己抗体が眼窩内組織に作用し、外眼筋や眼窩脂肪に炎症を引き起こす自己免疫疾患です。

その結果、眼球突出、複視、眼瞼腫脹、充血、眼痛などを生じ、重症例では圧迫性視神経症による視力低下を来すことがあります。バセドウ病に合併することが多いですが、甲状腺機能が正常、あるいは低下症であっても発症する場合があり、注意が必要です。

日常診療では、「点眼で改善しないまぶたの腫れ」「長引く充血」「朝方につらい複視」「最近目が出てきた気がする」などが、甲状腺眼症を疑う重要なサインとなります。眼瞼後退（目の見開き）や眼球突出は特徴的所見であり、特に両眼性複視を認める場合には注意が必要です。

当院では、視力・眼圧・眼球突出度測定・眼球運動検査に加え、眼窩MRIや抗体採血を行い、活動性評価（Clinical Activity Score：CAS）を含めて総合的に診断しています。

従来の治療は、ステロイドパルス療法や放射線治療が中心であり、炎症や疼痛の改善には有効である一方、眼球突出や複視の改善には限界がありました。

近年、IGF-1受容体阻害薬「テプロツムマブ（テッペーザ®）」が国内承認され、活動性甲状腺眼症に対する新たな治療選択肢として注目されています。国内第Ⅲ相試験（OPTIC-J試験）では、眼球突出改善、複視改善、QOL改善が示され、従来治療では困難であった症状への効果が期待されています。

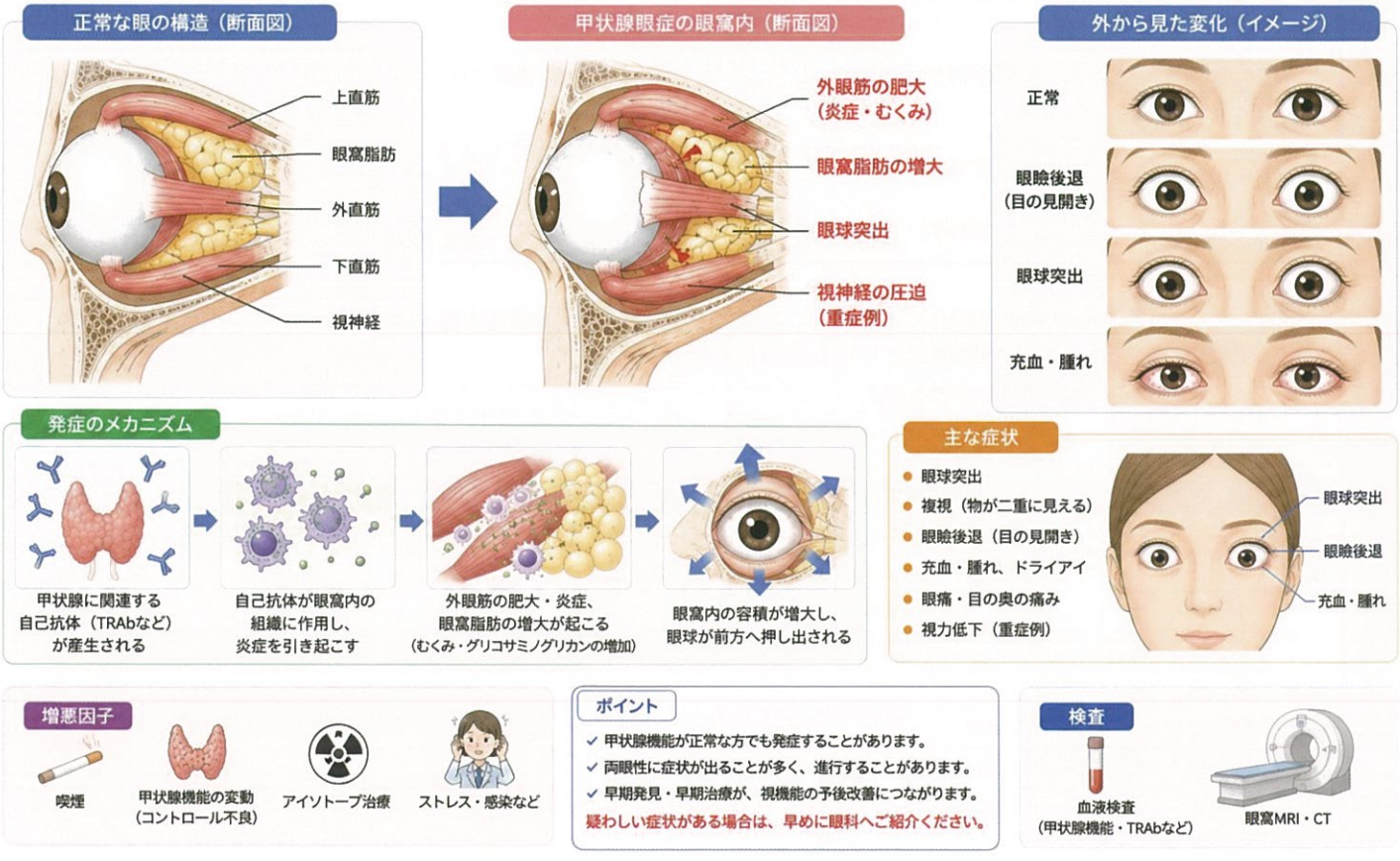
一方で、高血糖や聴覚障害などの副作用管理が必要であり、眼科単独ではなく、内分泌内科・耳鼻科を含めた多診療科連携が極めて重要です。

甲状腺機能異常を有する患者において、「見えづらい」「物が二重に見える」「まぶたが腫れる」「目が出てきた」などの症状を認めた場合には、早期の眼科紹介をご検討ください。活動期を逃さず治療介入することで、視機能障害や後遺症の軽減につながる可能性があります。

今後も地域医療機関との連携を深めながら、甲状腺眼症患者に対する早期診断・早期治療に努めてまいります。

甲状腺眼症（Thyroid Eye Disease：TED）とは

甲状腺に関連する自己抗体が、眼窩内の組織に作用して炎症を起こし、外眼筋や眼窩脂肪が腫れたり、増えたりすることで、さまざまな眼症状を引き起こします。



栄養状態の維持につなげています。食事の形態や姿勢、食べ方の工夫などを含めて評価し、患者さんが少しでも安全に経口摂取を継続できるよう支援しています。

また、各診療科の主治医から処方されたリハビリテーション処方箋の内容を確認し、患者さんの病状や回復段階に応じて、より適切な訓練内容となるよう調整を行っています。急性期では、全身状態が日々変化するため、過度な負荷を避けながらも、廃用を予防し、早期離床や基本動作の回復を図ることが重要です。当科では、病状に応じた安全なリハビリテーション医療を提供できるよう、診療科横断的に関わっています。

さらに、脳卒中や骨折、廃用症候群などにより、集中的な回復期リハビリテーションが必要と判断される患者さんについては、当法人の昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院と連携し、円滑な転院調整を行っています。急性期治療から回復期リハビリテーション、そして地域生活へと切れ目なくつないでいくことも、当科の大切な役割です。患者さんが安心して次の療養の場へ移行できるよう、治療経過やリハビリテーションの状況、生活上の課題を共有し、継続した支援につなげてまいります。

今後も当科では、急性期病院のリハビリテーション科として、患者さんの身体機能だけでなく、食事、移動、排泄、退院後の生活までを見据えた医療を大切にしていきます。病気やけがを乗り越えた先にある「その人らしい生活」を支えることを目標に、多職種と協力しながら、より質の高いリハビリテーション医療を提供できるよう努めてまいります。

地域医療機関のみなさまへ

当科は、急性期治療から回復期、そして地域生活へと患者さんをつなぐ橋渡し役を担ってまいります。今後も顔の見える連携を大切にし、患者さんが安心して地域で暮らし続けられるよう努めてまいります。引き続きご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

北部病院からのお知らせ

1 病診連携研修会の予定

名　称	内　容	日　時	開催場所	担当医師等・連絡先
第 24 回 国際消化器内視鏡セミナー （横浜ライブ 2026）	内視鏡手技実演・講演	7 月 18 日（土） 9：30 ～ 17：00	新横浜プリンスホテル	消化器内科　神山勇太 045-949-7265
第 26 回 内視鏡的粘膜切除術／内視鏡的粘膜下層剥離術研究会 （EMR/ESD 研究会）	症例検討・講演	7 月 19 日（日） 8：20 ～ 16：50	新横浜プリンスホテル	消化器内科　林 武雅 045-949-7265
第 22 回 AI- 拡大内視鏡研究会	症例検討・講演	9 月 5 日（土） 9：30 ～ 17：00	KFC Hall & Rooms （両国：東京都墨田区）	消化器内科　三澤将史 045-949-7265
第 35 回 大腸Ⅱｃ研究会	症例検討・講演	9 月 6 日（日） 9：00 ～ 16：30	KFC Hall & Rooms （両国：東京都墨田区）	消化器内科　一政克朗 045-949-7265

消化器センターから

大塚和朗センター長（前回号でご紹介）が着任し、特に炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、小腸疾患（小腸出血、小腸腫瘍やポリポーシス症候群など）にも注力してまいります。

2 北部病院　国民の祝日にあたる月曜日 月曜日祝日とシルバーウィークの対応（2026年）

日付		曜日	休日名	診療状況
7 月	20 日	月	海の日	※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。
8 月	11 日	火	山の日	
9 月	19 日	土		通常診療
	20 日	日		休診
	21 日	月	敬老の日	※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。
	22 日	火	国民の休日	
	23 日	水	秋分の日	

※紹介状がない場合は時間外選定療養費（11,000円）が別途発生いたします。